

**令和5年度 第3回富士宮市総合戦略有識者会議
各委員からのご意見・ご提案・ご質問 まとめ**

(2) 令和6年度地方創生関連事業についてのご意見・ご提案・ご質問

【基本目標1】「住んでよし」の安全・安心なまちを創造

【小林委員】

- ・市立病院の医療環境あり方検討事業については、富士中央病院や蒲原病院を含め、岳南地域全体として考えていくべきではないか。

→富士中央病院、蒲原病院などの周りも含めて医療環境の在り方検討は必要だと思う。あわせて、市立病院の老朽化もあることから、建て替え、増築なのかも含め、病院のことを考える機会と考えている。

【伊藤委員】

- ・市立病院の産婦人科の利用がなぜ少ないのか。若い人が利用しやすいように、内装のかわいらしさ、ごはんの美味しさなど、時代によって選ばれるものにする工夫が必要であると思う。

- ・自治会の役員のみならず手不足が深刻。区の事務の効率化のためのアプリの導入や、広報のデジタル化、またそれらは防災にもつながるのでは。

→自治会のDXについては次の総合戦略にはぜひ載せていきたい。行政からの依頼事務の軽減については副市長をトップに検討しており、区長会でも区の仕事の見直しを検討していただく予定。

【赤池委員】

- ・住基端末出張所設置事業はどのようなものなのか。交流センターや公民館は設置しないのか。また、マイナンバーカードの交付率はどのくらいか。
- マイナンバーの更新手続きなどの手続きを出張所の窓口でもできるように機器を設置する。交流センターや公民館までは対応できない。マイナンバーカードの交付率は約80%

【基本目標2】「訪れてよし」の魅了するまちを創造

【鈴木委員】

- ・新稲子川温泉ユース・トリオ整備の具体的な内容や市の考えは。
- 現在、休止しているプール棟を取り壊して、キャンプ場として整備する予定。整備に当たっては、辺地債という財源を活用し、令和6年度は解体と設計を行う。既にバーベキュー場があり、温泉もあることから、キャンプ場を整備し新たな観光客の呼び込みに力を入れる。

【田中委員】

・山梨と比べてとても宿泊施設が少なく、早急に拡充すべきだと思う。人の流れが戻ってきており、宿泊施設が足りていない。宿泊施設誘致事業について、どのようなことを行うのか。
→今まで職員が交渉してきたが、今後はコンサルタントに委託し、多角的な視点から富士宮市のポテンシャルも含め、マッチングやセールスにつながる場所や、ニーズなどの調査を行ってもらおう。また、市としても、当地にホテルが欲しいことを全国に向けて打ち出していく。北部はリゾートホテル、まちなかエリアは宴会場があるようなシティホテルの誘致の方向で考えていく。

【基本目標3】「出会ってよし 結ばれてよし」「生んでよし 育ててよし」「学んでよし」のあたたかいまちを創造

【田中委員】

・結婚新生活支援事業の対象者について、30代を包括したらどうか。
→夫婦ともに39歳以下の所得の合計500万円以下（手取り660万以下）が対象、初婚年齢が上がってきていることもあり、令和6年度からは29歳以下だった年齢条件を34歳以下ならば上限を60万円に拡充する。

【基本目標4】「働いてよし」の活力あるまちを創造

【鈴木委員】

・ジョブマッチングサイト事業とはどんなものか。
→企業ガイドブックの冊子を作製し、高校生に配布しているが、Webを使って自分の望む仕事を選んでくれるサイトを作成したいと考えている。

【木本委員】

・UIJターンの採用に苦慮している。Uターンが非常に少ない。ぜひUIJターン者就業支援に力を入れてもらいたい。本年度のガイドブックは非常に良いできとなっている。サイトのほうにも注力してもらいたい。

【小林委員】

・基本目標4が第1次産業に偏っている気がする。市内の6,000人も従業員を抱える企業では、増産したくても工場を建てられない。増産するには駐車場が足りない。新規企業誘致もあるが、今ある企業へもヒアリングして他市へ工場をもっていかれなくないようにしてもらいたい。
→市に貢献していただいている企業へのヒアリングをしっかりとるようにしている。山梨県・山口県など県を挙げて誘致に力を入れており、静岡県へも働きかけしている。誘致だけでなく、留置にも力を入れてバランスよく発展していくようにしたい。

【田中委員】

- ・新規卒業者の確保・就業継続支援事業（保育人材確保）は、保育士に限るのか。
- 保育士について、民間・公立限らずガイダンスなどに参加して募集していく。誰でも通園制度なども始まることから、保育人材を確保することで市内の勤労者の働きやすい環境づくりに対する支援につなげていきたい。

(3) その他（若者チャレンジ支援施設の紹介）についてご意見・ご提案・ご質問

【赤池委員】

- ・西高の探求学習発表会に出席した。高校生から商店街とコラボしてマルシェをしたいという提案であったが、高校生の提案がなかなか、活かされていないのが現状。若者チャレンジ施設も活用して、市と商店街がコラボして実現できたらと思う。十六市とのコラボや高校会議所との連携、東洋大学のゼミとのつながりもあるので活用できたらと思う。

【小林委員】

- ・若者を前面に出しすぎると、若者しか使えないイメージにもなるのでは。

【田中委員】

- ・i / HUBでは、地域ビジネスのニーズが多いので、この施設とも連携していければと思う。